

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(電子情報ネットワーク学科)

安 浪 誠 祐

概要と目標

この授業では、コンピュータ支援型英語教材を利用し、基礎から中級レベルのリスニングとリーディングを学習し、自分のペースで確実に実力をつけることを目標とする。教材の内容は日常生活で見聞きする事項から歴史や文化までと幅広いが、実用英語から資格試験まで応用が効く教材なので、これらの教材を確実にこなすことによって、TOEIC などの対策にもなる。自分から積極的に英語学習をする動機付けとなることも期待している。

授業計画

- 〈1〉 NetAcademy 基礎英語コースの Listening (L) と Reading (R) の教材
- 〈2〉 プリント
 1. オリエンテーション (機器と教材の使い方の説明)
 2. 〈1〉 L1-3、R1-3 〈2〉 配布プリント 1
 3. 〈1〉 L4-6、R4-6 〈2〉 配布プリント 2
 4. 〈1〉 L7-9、R7-9 〈2〉 配布プリント 3
 5. 〈1〉 L10-12、R10-12 〈2〉 配布プリント 4
 6. 〈1〉 L13-15、R12-15および L & R 前半部の復習とまとめ 〈2〉 配布プリント 5
 7. 中間テスト (〈1〉 L1-15、R1-15と 〈2〉 配布プリント 1-5 が範囲)
 8. 〈1〉 L16-18、R16-18 〈2〉 配布プリント 6
 9. 〈1〉 L19-21、R19-21 〈2〉 配布プリント 7
 10. 〈1〉 L22-24、R22-24 〈2〉 配布プリント 8
 11. 〈1〉 L25-26、R25-26 〈2〉 配布プリント 9
 12. 〈1〉 L27-28、R27-28 〈2〉 配布プリント 10
 13. 〈1〉 L29-30、R29-30 〈2〉 配布プリント 11
 14. 〈1〉 L & R 後半部の復習とまとめ 〈2〉 配布プリント 後半部の復習
 15. 期末試験 (〈1〉 L16-30、R16-30と 〈2〉 配布プリント 6-11が範囲)

授業方法

基礎英語コースの Listening (L) と Reading (R) を毎回最低で前半は各3ユニット、少しレベルが高くなる後半部分は各2ユニット、配布プリントを学習する。基礎英語コース教材の学習ノルマが授業時間中に達成できない場合は、各自で自習時間にやっておくこと。前半と後半の中ほどで中間テストを行う。

評価方法

中間テストと期末テストの成績を基に評価を行うが、配布プリントの予習状況、授業中の学習態度なども平常点として考慮する。

教 材

- 〈1〉 NetAcademy (電算機室のパソコンに搭載されている教材なので、購入の必要はない。)
- 〈2〉 プリント (授業時間に配布する。授業担当者が準備をするので、購入の必要はない。)

履修上の注意

〈1〉については、自習時間などを活用して積極的に学習に取り組むこと。さらに〈2〉については、予習と復習に力を入れること。できるだけ辞書などを用いて自分で学習する習慣を身につけること。

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(ソフトウェアサイエンス学科A)

池 田 志 郎

概要と目標

この授業では、TOEIC に準拠した教材を用い、基礎から中級までの英語力の獲得を目指す。特に、Reading セクションにおける語彙と文法事項について学習し、段階的に英語力の向上を図る。この授業で力をつけて、本学で実施されている TOEIC-IP に挑戦してもらいたい。

授業計画

1. オリエンテーション (授業と学習の仕方についての説明)
2. Units 1 & 2 (代名詞・時制・動詞の語法)
3. Units 3 & 4 (前置詞・数量形容詞、接尾辞・品詞・分詞)
4. Units 5 & 6 (語彙：名詞1、語彙：名詞2)
5. Units 7 & 8 (語彙：名詞3、語彙：動詞1)
6. Units 9 & 10 (語彙：動詞2、語彙：形容詞・副詞)
7. Units 11&12 (語彙：動詞、語彙：名詞)
8. 中間試験
9. Units 13&14 (語彙：形容詞、語法)
10. Units 15&16 (通知文、告知文)
11. Units 17&18 (広告文、求人文)
12. Units 19&20 (記事文、文書様式)
13. Units 21&22 (グラフ、メール文)
14. Units 23&24 (メール文、手紙文)
15. 学期末試験

授業方法

各自の予習を基本とし、授業では解答の発表を行ってもらう。

評価方法

中間試験 (40%) と学期末試験 (60%) の合計で評価する。
また、授業への積極的な参加も特別に考慮する。

教科書

書名：The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary (Book 1)
著者：吉塚 弘
出版社：成美堂

履修上の注意

予め予習をして授業に備えること。

科 目 名

英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(ソフトウェアサイエンス学科B)

池 田 志 郎

概要と目標

この授業では、コンピュータ支援型英語教材を利用し、基礎から中級レベルのリスニングとリーディングを学習し、自分のペースで確実に実力をつけることを目標とする。教材の内容は日常生活で見聞きする事項から歴史や文化までと幅広いが、実用英語から資格試験まで応用が効く教材なので、これらの教材を確実にこなすことによって、TOEIC などの対策にもなる。自分から積極的に英語学習をする動機付けとなることも期待している。

授業計画

* 基礎英語コースの Listening (L) と Reading (R) の教材

1. オリエンテーション (機器と教材の使い方の説明)
2. L1-3、R1-3
3. L4-6、R4-6
4. L7-9、R7-9
5. L10-12、R10-12
6. L13-15、R12-15および L & R 前半部の復習とまとめ
7. 中間テスト (L1-15、R1-15が範囲)
8. L16-18、R16-18
9. L19-21、R19-21
10. L22-24、R22-24
11. L25-26、R25-26
12. L27-28、R27-28
13. L29-30、R29-30
14. L & R 後半部の復習とまとめ
15. 期末試験 (L16-30、R16-30が範囲)

授業方法

初級英語コースの Listening (L) と Reading (R) の教材を毎回最低で前半は各3ユニット、少しレベルが高くなる後半部分は各2ユニット学習する。授業時間中に終わることが出来なかった場合は、各自で自習時間に終わること。前半と後半の中ほどで小テストを行う。

評価方法

小テスト (10点×2回)、中間テスト (40点)、期末テスト (40点) の合計で評価する。
また、授業への積極的な参加も平常点として特別に考慮することがある。

教科書

NetAcademy (電算機室のパソコンに搭載されている教材なので、購入の必要はない。)

履修上の注意

自習時間を活用して予習と復習をすること。

科 目 名

英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(コンピュータシステムテクノロジー学科)

光 永 武 志

概要と目標

既に習得している英文法の知識や語彙力、リスニング力を基礎として、英語IVでも大学での専門科目を学んでいくために必要なリーディング力やリスニング力の習得を目標とする。また、毎回小テストを実施し、TOEIC テストなどの資格試験に対応するための英語力を培う。随時、多読・多聴活動も取り入れて、英語に対する興味を喚起することも目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ~14.
テキストの内容に沿って順次進めて行く。
(詳細は1回目の授業の際に説明する。)
15. 定期試験

授業方法

基本的なリスニング力アップのための演習として、小テストを兼ねた練習問題を行う。また、テキストを使用して練習問題を解答しながら、読解力や語彙力をブラッシュ・アップする。

評価方法

定期試験 6割、小テスト・課題・出席状況などの平常点 4割で評価する。

教科書（前期 英語Ⅲの教科書継続使用）

David E. Bramley、河合忠仁、桐村 亮、*Score Goals in TOEIC Test Listening 400* 松柏社
Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell, *English through the News Media 2009 Edition*
朝日出版社

科 目 名

英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(機械工学科A)

木 下 陽 子

概要・目標

本講義では1年次に学んだ英文法の理解を Listening/Speaking の分野で応用できる能力の育成を目的とする。正しく音声を聞き取り、理解することは会話を成立させる上で重要なことである。聴解・会話演習に慣れ親しみ、自らの意見を発信する力を養成する。

授業計画

授業内容はテキストに沿って進め、英文法や日常表現に関する解説を加えながら聞き取りの指導を行う。また会話の課題として学期末にグループ発表を行う。

授業方法

基本的には毎回テキストに沿って進めるが必要に応じて配布プリントでの補足説明・演習を行う。講義は担当者による解説と学生によるグループワーク、発表等の参加を中心に行う。ペアワーク・グループ発表などは学生間の協力が必要となるので責任を持って取り組むことが必要。講義は基本的に聴解・会話を中心としているので英文法の苦手な学生は講義中、学習相談、または office hour に積極的に質問すること。

評価方法

出席状況（授業姿勢）、課題発表、定期試験を総合的に評価。

教科書・教材

Joyful English Book2、David Nunan 著、Heinle Cengage Learning
配布プリント

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(機械工学科B)

安 浪 誠 祐

概要と目標

この授業では、コンピュータ支援型英語教材を利用し、基礎から中級レベルのリスニングとリーディングを学習し、自分のペースで確実に実力をつけることを目標とする。教材の内容は日常生活で見聞きする事項から歴史や文化までと幅広いが、実用英語から資格試験まで応用が効く教材なので、これらの教材を確実にこなすことによって、TOEIC などの対策にもなる。自分から積極的に英語学習をする動機付けとなることも期待している。

授業計画

- 〈1〉 NetAcademy 基礎英語コースの Listening (L) と Reading (R) の教材
- 〈2〉 プリント
1. オリエンテーション (機器と教材の使い方の説明)
2. 〈1〉 L1-3、R1-3 〈2〉 配布プリント 1
3. 〈1〉 L4-6、R4-6 〈2〉 配布プリント 2
4. 〈1〉 L7-9、R7-9 〈2〉 配布プリント 3
5. 〈1〉 L10-12、R10-12 〈2〉 配布プリント 4
6. 〈1〉 L13-15、R12-15および L & R 前半部の復習とまとめ 〈2〉 配布プリント 5
7. 中間テスト (〈1〉 L1-15、R1-15と 〈2〉 配布プリント1-5が範囲)
8. 〈1〉 L16-18、R16-18 〈2〉 配布プリント 6
9. 〈1〉 L19-21、R19-21 〈2〉 配布プリント 7
10. 〈1〉 L22-24、R22-24 〈2〉 配布プリント 8
11. 〈1〉 L25-26、R25-26 〈2〉 配布プリント 9
12. 〈1〉 L27-28、R27-28 〈2〉 配布プリント10
13. 〈1〉 L29-30、R29-30 〈2〉 配布プリント11
14. 〈1〉 L & R 後半部の復習とまとめ 〈2〉 配布プリント後半部の復習
15. 期末試験 (〈1〉 L16-30、R16-30と 〈2〉 配布プリント 6-11が範囲)

授業方法

基礎英語コースの Listening (L) と Reading (R) を毎回最低で前半は各3ユニット、少しレベルが高くなる後半部分は各2ユニット、配布プリントを学習する。基礎英語コース教材の学習ノルマが授業時間中に達成できない場合は、各自で自習時間にやっておくこと。前半と後半の中ほどで中間テストを行う。

評価方法

中間テストと期末テストの成績を基に評価を行うが、配布プリントの予習状況、授業中の学習態度なども平常点として考慮する。

教 材

- 〈1〉 NetAcademy (電算機室のパソコンに搭載されている教材なので、購入の必要はない。)
- 〈2〉 プリント (授業時間に配布する。授業担当者が準備をするので、購入の必要はない。)

履修上の注意

〈1〉については、自習時間などを活用して積極的に学習に取り組むこと。さらに〈2〉については、予習と復習に力を入れること。できるだけ辞書などを用いて自分で学習する習慣を身につけること。

科 目 名

英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(ナノサイエンス学科)

川 野 富 昭

概要と目標

この講義は TOEIC の Reading Section を Grammar にそれぞれ対応させるテキスト演習を主とし、副教材として Listening 教材を併用することによって語学学習の基本となる 4 技能の基礎力養成を目的としています。講義には学生の積極的な演習活動を取り入れ、基本例文の暗誦等が組み込まれます。

講義計画

教 材

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. Introduction | |
| 2. Unit 7 副詞 形容詞 | ① Listening教材演習 |
| 3. | ② |
| 4. Unit 8 熟語 | ① |
| 5. | ② |
| 6. Unit 9 語彙 | ① |
| 7. | ② |
| 8. Unit 10 Vocabulary Review | ① |
| 9. Unit 11 | ② |
| 10. Unit 12 | ③ |
| 11. Unit 13 | ④ |
| 12. Unit 14 | ⑤ |
| 13. Unit 15 | ⑥ |
| 14. 総合演習 | |
| 15. 定期考査 | |

講義方法

講義は学生の演習を中心とし、特に個人指導に配慮する。Listening, Speaking は個人演習を主体とし、講義に対する緊張感を持たせる。

評価方法

演習結果に対する個人評価と小テストを総合的に判断し、定期考査60点に加える。

教 材

テキスト：TOEIC TEST READING 450

著 者：R. Kimura

発 行 所：Nanundo

科 目 名

英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(エコデザイン学科)

恒 松 郁 生

概要・目標

この授業では最初の20分ほど、日本人の間見えやすい英語的な発想法について学ぶ。テキストは英国についての旅行、文化、社会のトピックについて学ぶ。最初にトピックの背景を説明し、ネイティブ・スピーカーの英語を聞き、学生に読ませ英文の内容の理解に努める。授業では2回、英字新聞の記事や BBC 英語ニュースのトピックを取り上げ、海外事情に興味を持つような授業とする。

授業計画

- 1 Yorkshire-Haworth Village
- 2 The Lake District
- 3 Liverpool
- 4 英字新聞や BBC ニュースから話題のトピックを選ぶ
- 5 The Peak National Park
- 6 A Wedding
- 7 A Car-boot Sale
- 8 In the City
- 9 People
- 10 英字新聞や BBC ニュースから話題のトピックを選ぶ
- 11 London-The Tower of London
- 12 London-Westminster Abbey
- 13 London-The Globe Theatre
- 14 London-Millennium Bridge

授業方法

テキスト、CD、英国の新聞やビデオによる講義と演習を行う。

学習到達度の評価

授業ではネイティブ・スピーカーの英語を学生にリピートさせ、英語独特のイントネーションを学び、英文が理解できているか確認しながら授業を進める。学生に和訳をさせ、予習、復習をやっているかを平常点として加える。

評価方法

定期試験を80点とし、小テスト、授業態度、出席率20点で評価する。

教科書

書 名 Looking Around England
著 者 Terry O'Brien
出版社 南雲堂

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(宇宙航空システム工学科A)

角 田 俊 治

概要と目標

IT 機器と副教材（教科書）の両方を使って授業を行い国際的なコミュニケーションの手段としての英語の基礎的な運用能力を身につける。大学で共通に指定された e-ラーニング用の CALL 教材に50%、そして副教材と教員自作教材を合わせたものに50%の割合で、授業時間を充てる。

詳細については、第1回目の授業時に説明を行う。

授業計画

- ・ e-ラーニング教材
第1回：オリエンテーション（CALL 教材の使い方、授業の進め方、副教材について）
第2-13回：各学生はパソコンに向かいながら、自分の語学力に応じたペースで、指定された CALL 教材（Listening 及び Reading の基礎編）の設問を解いていく。
第15回目：試験
- ・ 副教材 *以下の計画は、授業の進行度に応じて変えることがある。
第1回：オリエンテーション
第2回～第9回：テキストの基礎編（Unit 1～Unit 10）の設問の内の、英作文問題を中心に授業を行う。本副教材は英作文のテキストとしては極めて平易なものであるが、頭の中での英文作成、及びスピーキングの訓練用として使用する。
第10回～第13回：
テキストの応用編の内から、比較表現（Unit 16）、否定表現（Unit 17）、仮定表現（Unit 20）等を中心に授業を行う。
第14回：試験を前提とした過去の授業の復習。
第15回：定期試験。

授業方法

e-ラーニングの特長は、ある程度独学が出来ることにある。各人が自分のペースでパソコンの出す設問を消化していく。

評価方法

指定された CALL 教材ノルマの達成度、出席状況、試験結果等を合計して評価する。なお、CALL 教材に対する正答率は、成績評価には反映させない。

教科書（副教材）

書 名：「5文型から始める大学英作文」
出版社：センゲージラーニング(株)
編 者：小中秀彦

履修上の注意

学内のネットに繋がっていれば、いずれのパソコンでも講義時間以外に教材にアクセスすることが可能。その特色を十分に利用して勉強すること。

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(宇宙航空システム工学科B)

角 田 俊 治

概要と目標

汚染・環境問題、貧困と臓器売買、エンジニアの心得、ネットのセキュリティ等々、とりわけ理工系学生に興味のありそうな話題を扱ったテキストを用いる。科学に関する初歩的な文献の読解力、科学に関わる基本語彙の習得を目指す。さらにプリントを使い、テキスト内の構文を応用した英文作成能力の向上を目指す。

授業計画

- 第1回：授業の進め方に関するオリエンテーション及び教科書への導入
 - 第2-3回：Unit 1の読解、及び設問と英作文演習
 - 第4-5回：Unit 3の読解、及び設問と英作文演習
 - 第6-7回：Unit 5の読解、及び設問と英作文演習
 - 第8-9回：Unit 6の読解、及び設問と英作文演習
 - 第10-11回：Unit 7の読解、及び設問と英作文演習
 - 第12-14回：Unit 12、Unit 13の読解、及び設問と英作文演習
 - 第15回：試験
- *以上の計画は、授業の進度に応じて変えることがある。

授業方法

- 1) 教科書及び英作文のプリント等を学生が予習して授業の中で発表を行い、教員が指導する。
- 2) 教科書には英作文の設問は稀少であるが、各章ごとに教員の自作教材による英作文問題の演習を含める。
- 3) 一部に視聴覚機器を用いる。
- 4) 授業方法の詳細については第一回の授業時に説明を行う。

評価方法

定期試験、出席状況、発表の内容、レポート等を合計して評価する。

教科書

書 名：総合英語：クロス・ストリームズー科学技術の多様な側面を考えるための英文読解
出版社：(株)三修社
編 者：松尾秀樹（他）

履修上の注意

予習が必須である。なお本テキストには CD が付属しているので、授業外の時間においても、各自聞き取りの練習を十分に行うこと。

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(応用生命科学科A)

木 下 陽 子

概要・目標

本講義では1年次に学んだ英文法の理解を Listening/Speaking の分野で応用できる能力の育成を目的とする。正しく音声を聞き取り、理解することは会話を成立させる上で重要なことである。聴解演習に慣れ、情報を正しく理解し、発信する力を養成する。

授業計画

授業内容はテキストに沿って進め、英文法や日常表現に関する解説を加えながら聞き取りの指導を行う。また Speaking の課題として学期末にグループ発表を行う。

授業方法

基本的には毎回テキストに沿って進めるが必要に応じて配布プリントでの補足説明・演習を行う。講義は担当者による解説と学生によるグループワーク、発表等の参加を中心に行う。ペアワーク・グループ発表などは学生間の協力が必要となるので責任を持って取り組むことが必要。講義は基本的に Listening を中心に行うので英文法の苦手な学生は講義中・office hour に積極的に質問すること。

評価方法

出席状況（授業姿勢）、課題発表、定期試験を総合的に評価。講義中での発表は出席に含む。

教科書・教材

New Airwaves、Dale Fuller/Clyde W. Grim 共著、マクミラン ランゲージハウス
配布プリント

科 目 名
英 語 IV English IV

2年 後期 2単位 選択
(応用生命科学科B)

木 下 陽 子

概要・目標

本講義はテキストを用いての聴解に重点を置き進めるとともに、パソコンを使用しての TOEIC 演習による自立学習の促進を目標とする。正しく音声聞き取り、理解することは会話を成立させる上で重要なことである。聴解演習に慣れ、情報を正しく理解し、発信する力を養成する。

授業計画

毎回、講義前半をテキストを使用したの解説・演習にあて、後半をパソコンを使用したの TOEIC (NetAcademy2) 演習にあてる。TOEIC 演習に関しては講義初日に使用方法・評価について詳しく説明する。講義は基本的に聴解を中心としているので英文法の苦手な学生は講義中・office hour に積極的に質問すること。

授業方法

講義前半をテキストによる講義にあて、必要に応じて配布プリントで補足説明、演習を行う。講義中は担当者による解説と学生によるグループワーク、発表等の参加を中心に行う。講義後半の TOEIC 演習は自立学習となるが、Reading・Listening 共に中間試験で達成度を確認する。

評価方法

NetAcademy 学習達成度、定期試験、出席状況を総合的に評価する。

教科書・教材

New Airwaves、Dale Fuller/Clyde W. Grim 共著、マクミラン ランゲージハウス
配布プリント